



鳥獣被害を増やしていませんか？

鳥獣被害が増えるのは、被害を増やすような状況が集落内に放置されていたり、当事者として自覚ある取組みになっていない面があるからです。集落の現状を皆で確認してみましょう。

餌付けしていませんか？

被害が起きるのは集落内に「エサがある」からです。しかも、被害が激化するのはい図しないにせよ下の図のような「餌付けをしている」実態があるからです。



人馴れさせていませんか？

野生鳥獣のエサとなるものが集落内に放置され、しかも追い払いもしなければ、実態としてエサを準備したり、人馴れさせたりして餌付けをしたのと同じこととなります。

- たまたま集落に行ったが、危ない目に遭わずにエサが食べられた。もう一度行ったが、再度危ない目に遭わずにエサが食べられた。
→ 「ここはいつ行ってもエサを食べられる場所」と学習します。
- 集落に行って人に見つかったが、簡単に逃げることができた。もう一度行った際にも人に見つかったが、今度も簡単に逃げられた。
→ 「人間はこっちを見ても何もしてこないの、人間は怖くない」と学習します。

人間本位に考えていませんか？

人間本位の考えは動物には通用しません。動物はそんな人間の考えを敏感に感じ取って行動します。

人間はこう考える

動物の気持ちになれば…

- 専門家に任せれば安心!! → 「住民は見ていだけで追い払ってこないから全然怖くない!!」と思っています。専門家任せにせず、住民も当事者になりましょう。
- 爆音機や花火で驚かせれば簡単に追い払える!! → 「大きい音がするから最初は怖かったけど、何にも危害がないから怖くない」と思っています。大きな音には慣れてしまうので、別の対策をとりましょう。
- 耕作する田畑さえ守ればOK!! → 「人間が管理している圃地以外に出ても何も怒られないから大丈夫」と思っています。管理放棄圃地も監視領域にして、草刈りをしたり、追い払ったりしましょう。
- 柵を設置すれば大丈夫! → 「いつも変わりばえのしない柵だから、一度突破できたら楽勝だ」と思っています。柵を整備しなおしたり、柵の内側に網を張ったりして突破を防ぎましょう。

対策 鳥獣被害対策はどうすすめる？

鳥獣被害への対策は、以下の①～④の順序で行いましょう。これを火事への対応に例えると、第一に防火(①、②)、第二に初期消火(③)、第三に消防署による消火活動(④)ということになります。

①②が無くて③④を進めようとする、「早く火を消してくれといいながら、集落のみんなが灯油やガソリンをかけて歩いている」と同じ状況です。まずそうした行為を減らさなければ、どんな対策をやっても効果はあがりません。

① みんなで勉強!

野生鳥獣の生態や習性を知り、何が餌付けになるのかと集落のみんな理解することが重要です。普段の行動が餌付けになっていることに気づきましょう。そのうえで、自分たちで何ができるのか考えてみましょう。



② 守れる圃場、守れる集落に環境改善!

野生鳥獣にとって餌場としての価値が低くなるように、圃場や家の周りの環境を改善していきましょう。田畑の周りの藪や、家のすぐ後ろまでびっしりと生えている竹林、収穫もしなくなった庭の果樹などはエサを提供するだけでなく、潜み場所を与え、さらに作業音やラジオなどによって人慣れしてしまいます。

③ 柵で囲い、みんなで追い払い!

電気柵などで圃場を囲うことは有効な対策ですが、集落内のエサのうち、柵内のものだけを手出しにくくする手段にすぎません。周りにエサがあれば野生鳥獣は電気柵の外の作物を狙います。効果をあげるために、柵の周りの環境が餌付けになっていないか確認したり、草刈りをしたりして、メンテナンスをしっかりと行いましょう。

また、追い払いは集落のみんなで行いましょう。ロケット花火がなければ石ころ、木切れを投げつける、大声で威嚇するだけでも良いのです。人間は怖いぞという態度をしっかりとることが大切です。



④ 駆除や大規模柵の設置!

①～③までを自分たちで行って、どうしても被害が収まらなかったら専門家による駆除(捕獲や箱わな設置)や大規模柵の設置を行いましょう。

